

神戸女子大学古典芸能研究センター編

神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集2

絵入謡本と能狂言絵

▶B5判並製・148頁

定価：本体 4,200円＋税

ISBN:978-4-7842-1954-4

【2018年11月刊行】



『能狂言絵巻』二十六 松風より



『絵入謡本』松風より

神戸女子大学古典芸能研究センターおよび同大学が所蔵する『絵入謡本』『能狂言画帖』『能狂言絵巻』『能狂言図巻』の絵画部分のカラーで掲載。さらに解題と詞章の翻刻を付す。いずれも能・狂言の内容を絵画化した興味深い作品で、とりわけ『絵入謡本』は加賀藩前田家旧蔵という確かな伝来を持つ優品。

●目次●

カラー図版

絵入謡本

能狂言画帖

能狂言絵巻

能狂言図巻

解題・詞章

神戸女子大学

古典芸能研究センター蔵

『絵入謡本』解題(小林健二)

『絵入謡本』詞章(樹下文隆)

神戸女子大学図書館蔵『能狂言画帖』『能狂言絵巻』『能狂言図巻』

(小林健二)

『能狂言絵巻』詞章(樹下文隆)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	絵入謡本と能狂言絵	本体4,200円(税別)	ISBN978-4-7842-1954-4
お名前			tel	 本書HPのQRコード
			e-mail	
ご住所	〒			
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎			

猿楽と面

—大和・近江および白山の周辺から—

MIHO MUSEUM編／伊東四朗監修

MIHO MUSEUM2018年春季特別展「猿楽と面—大和・近江および白山の周辺から—」の展覧会図録。

平安後期から鎌倉時代の古面に始まり、南北朝から室町、安土桃山時代の大成期にわたる350点（うち重要文化財80点）の「面（おもて）」をカラーで掲載、さらに約500点の面の表／裏を一堂に収録する。

中世の人々が熱狂した猿楽（能楽）の世界を紐解く。

▶B5判・402頁／本体3,200円（税別）
ISBN978-4-7842-1936-0



能管の演奏技法と伝承

森田都紀著

六百余年もの長きにわたってわが国で伝承されてきた演劇、能。能の楽器の中で唯一の管楽器である能管（笛）は、物語の情景を彩る重要な存在でありながら、その演奏技法がいかんにして形成されたかについての先行研究は少なく、未解明な点が多い。

本書は、室町時代末期から昭和期までの唱歌譜の解説と、近現代の演者の演奏技法の分析を通して、能管を中心とする能楽の演出の形成過程を歴史的に解明しようと試み。

▶A5判・252頁／本体8,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1932-2

翁の生成 渡来文化と中世の神々

金賢旭著

【オンデマンド版】

中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見だし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘する。

日本の基層文化の形成を韓半島の文化との交渉の中から根本的に考え直すことにより、日本と韓半島との文化交流の、中世における新たな相貌を浮かび上がらせる意欲作。（初版2008年）

▶A5判・250頁／本体5,000円（税別）

ISBN978-4-7842-7010-1

宗達伊勢物語図色紙

羽衣国際大学日本文化研究所伊勢物語絵研究会編

17世紀前半の京都、俵屋宗達の工房で制作された「伊勢物語図色紙」は、独創的な技法、描法、大胆な発想と非現実的な表現を用いた優雅な王朝物語絵であり、いわゆる「琳派」が繰り返し描いた伊勢物語絵の（始発）である。

「宗達伊勢物語図色紙」はこれまでまとまって紹介されることのなかった作品だが、本書では、近年発見された色紙も含めて、59面のすべてをカラー、原寸大で掲載し、また、色紙に描かれた伊勢物語の世界の解釈、伊勢物語絵巻・絵本との比較対照、さらに、宗達における色紙の位置づけ、裏書の解説、色紙の特徴的な構図と技法、色紙成立の動機、色紙をめぐる人的ネットワークなどに関する新たな知見を収める。

▶B4判変・220頁／本体19,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1679-6



風俗絵画の文化学Ⅱ 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・杉子女王編

風俗絵画とは虚実をうつす機知の媒体である一。

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究。

絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」—虚実を往来する機微や感性の「かたち」—を明らかにしていく15篇。

▶A5判・450頁／本体7,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1615-4

風俗絵画の文化学Ⅲ

瞬時をうつすフィロソフィー

松本郁代・出光佐千子・杉子女王編

「風俗絵画研究会」の文化学的探求の研究成果をまとめたシリーズ第3弾。風俗画の歴史的な実証に留まらず、描かれた事象に織り交ざる虚実を読み解くことで、鑑賞されることを意識した美的な演出や、儀礼や慣習から生じた絵の上での約束事や仕掛け、信仰のイメージや地域に根ざした特殊な世界観などといった、人間の営為そのものの原理を探究する、哲学的思考（フィロソフィー）へと解釈を広げた13篇。

▶A5判・434頁／本体7,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1775-5

源平の時代を視る

—二松學舎大学附属図書館所蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』を中心に—

磯水絵・小井土守敏・小山聡子編

二松學舎大学附属図書館所蔵の奈良絵本『保元物語』『平治物語』の諸相と、奈良絵本と軍記物語についての研究の軌跡と成果13篇。

▶A5判・278頁／本体4,800円（税別）

ISBN978-4-7842-1735-9

琳派 響きあう美

河野元昭著

光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一など、琳派と呼ばれる芸術家たちが互いにどう影響しあい、独自の美を生み出してきたのか。今もなお人びとを魅了してやまない才能あふれるクリエイターたちの実像に迫る27篇。日本近世絵画史全体にわたる業績のなかから、その中核をなす琳派研究を集大成。

▶A5判・880頁／本体9,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1785-4

写しの力 創造と継承のマトリクス

島尾新・杉子女王・亀田和子編

二項対立的に「オリジナル」と「コピー」を捉え、模本を原本に劣るものとして考えるのではなく、日本美術における模写の伝統をさまざまな角度から再検討する試み。

▶A5判・278頁／本体4,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1711-3

原本『古画備考』のネットワーク

古画備考研究会編

江戸時代後期に『古画備考』を〈書画情報〉総合集積の場として、大規模に繰り広げられていた古画研究ネットワークの実態を浮かび上がらせる。江戸後期の知識人による知のネットワークが幕末から近代にかけての日本の歴史に寄与した一端を解明する17論文・3コラムで構成した総合的論文集。

▶A5判・498頁／本体9,200円（税別）

ISBN978-4-7842-1674-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。